

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年5月13日
【四半期会計期間】	第48期第3四半期（自平成22年1月1日至平成22年3月31日）
【会社名】	レーザーテック株式会社
【英訳名】	Lasertec Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡林 理
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目10番地1
【電話番号】	(045)478-7111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 内山 秀
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目10番地1
【電話番号】	(045)478-7111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 内山 秀
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪府大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第3四半期連結 累計期間	第48期 第3四半期連結 累計期間	第47期 第3四半期連結 会計期間	第48期 第3四半期連結 会計期間	第47期
会計期間	自平成20年 7月1日 至平成21年 3月31日	自平成21年 7月1日 至平成22年 3月31日	自平成21年 1月1日 至平成21年 3月31日	自平成22年 1月1日 至平成22年 3月31日	自平成20年 7月1日 至平成21年 6月30日
売上高(千円)	4,892,572	5,109,024	422,967	1,448,727	9,266,696
経常損益(は損失)(千円)	910,057	173,819	641,522	112,394	659,777
四半期(当期)純損益(は損失)(千円)	719,342	127,380	415,828	31,124	651,328
純資産額(千円)	-	-	11,929,772	11,702,189	11,973,433
総資産額(千円)	-	-	22,465,835	17,917,141	19,867,967
1株当たり純資産額(円)	-	-	1,054.67	1,034.46	1,058.54
1株当たり四半期(当期)純損益(は損失)(円)	63.86	11.30	36.91	2.76	57.82
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	-	-	52.9	65.0	60.0
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	2,458,450	1,839,792	-	-	1,487,395
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	283,862	27,517	-	-	239,816
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	1,536,742	1,613,696	-	-	536,742
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	-	-	1,532,566	1,727,098	1,533,694
従業員数(人)	-	-	240	231	240

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

4. キャッシュ・フローの は、資金の減少を示しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数（人）	231
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、派遣社員（3名）を含んでおります。

(2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数（人）	196
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、派遣社員（3名）を含み、顧問とレーザーテック・コリア・コーポレーションへの出向者（1名）は含まれておりません。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 品目別生産実績

当第3四半期連結会計期間（自平成22年1月1日至平成22年3月31日）における生産実績を品目ごとに示すと、次のとおりであります。

品目	金額（千円）	前年同四半期比（％）
製品		
半導体関連装置	1,254,402	161.2
F P D関連装置	149,549	25.4
レーザー顕微鏡	94,806	63.5
小計	1,498,758	98.8
サービス	194,773	91.7
合計	1,693,531	97.9

- (注) 1. 金額は販売価格で表示しております。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 品目別受注高及び受注残高

当第3四半期連結会計期間（自平成22年1月1日至平成22年3月31日）における受注状況を品目ごとに示すと、次のとおりであります。

品目	受注高	前年同四半期比	受注残高	前年同四半期比
	金額（千円）	（％）	金額（千円）	（％）
製品				
半導体関連装置	533,447	57.7	1,780,218	73.4
F P D関連装置	538,403	4,727.0	3,360,937	63.8
レーザー顕微鏡	60,411	51.0	74,610	58.5
小計	1,132,261	107.3	5,215,765	66.7
サービス	207,255	105.0	156,187	120.2
合計	1,339,516	106.9	5,371,952	67.5

- (注) 1. 金額は販売価格で表示しております。
2. 受注高には受注取消・変更等による調整額が含まれております。
3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 品目別販売実績

当第3四半期連結会計期間(自平成22年1月1日至平成22年3月31日)における販売実績を品目ごとに示すと、次のとおりであります。

品目	金額(千円)	前年同四半期比(%)
製品		
半導体関連装置	795,282	1,915.4
F P D関連装置	369,257	3,344.7
レーザー顕微鏡	89,414	56.5
小計	1,253,953	595.2
サービス	194,773	91.7
合計	1,448,727	342.5

(注) 1. 前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。なお、前第3四半期連結会計期間における信越化学工業株式会社及びPHOTRONICS KOREA LABORATORY CO.,LTDへの販売実績、及び当第3四半期連結会計期間における三菱UFJリース株式会社への販売実績は、各第3四半期連結会計期間の総販売実績に対する割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

相手先	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
信越化学工業株式会社	-	-	780,445	53.9
PHOTRONICS KOREA LABORATORY CO.,LTD	-	-	249,532	17.2
三菱UFJリース株式会社	49,800	11.8	-	-

2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

1.業績の状況

当第3四半期連結会計期間における世界経済は、新興国中心に回復の兆しを見せてまいりましたが、米国及び日本においては失業率が高止まりするなど厳しい状況が続いており、景気の回復はいまだ本格化しておりません。

こうした状況にはありますが、半導体業界では、DRAM、フラッシュメモリなどの価格が引続き堅調で、先端デバイスメーカーでは、微細化を中心に積極的な設備投資が始まりました。

また、FPD業界においても、各国の景気刺激策の効果もあり、各パネルメーカーの工場は順調に稼働しております。しかし、設備投資につきましては、中国を中心に複数の新たな投資計画が発表されましたが、具体的な投資の開始時期は今年後半からとみられております。

このような状況下、当第3四半期連結会計期間の売上高は14億48百万円（前年同期比242.5%増）となりました。

製品品目別に見ますと、半導体関連装置が7億95百万円（前年同期比1,815.4%増）、FPD関連装置が3億69百万円（前年同期比3,244.7%増）、レーザー顕微鏡が89百万円（前年同期比43.5%減）となりました。

連結損失については、営業損失1億6百万円（前年同期は6億48百万円の損失）、経常損失1億12百万円（前年同期は6億41百万円の損失）、四半期純損失は31百万円（前年同期は4億15百万円の損失）となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。なお、記載されている数値は、セグメント間の内部取引消去前の数値となっております。

日本

FPD関連装置の売上は厳しい状況が続いておりますが、主要製品である半導体関連装置の売上は堅調に推移し、売上高は13億99百万円（前年同期比320.5%増）となりました。営業損失は78百万円（前年同期は6億33百万円の損失）となりました。

北米

北米全体に厳しい状況が続いており、売上高は45百万円（前年同期比52.5%減）に止まり、営業損失は24百万円（前年同期は6百万円の損失）となりました。

その他

韓国等については、メンテナンスサービスを中心として売上高は85百万円（前年同期比119.6%増）となり、営業利益は6百万円（前年同期は28百万円の損失）となりました。

2.キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前四半期末に比べ81百万円増加し、17億27百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は10億84百万円（前年同期は9億49百万円の使用）となりました。これは主に、売上債権の減少額7億45百万円、前受金の増加額1億95百万円、賞与引当金の増加額1億7百万円、減価償却費88百万円などの資金増加要因が、税金等調整前四半期純損失77百万円などの資金減少要因を上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は7百万円（前年同期比89.6%減）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出6百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は10億円（前年同期は10億円の獲得）となりました。これは短期借入金の純減少額10億円によるものであります。

3.事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

4.研究開発活動

当第3四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2億22百万円であります。なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年5月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,785,800	同左	大阪証券取引所 (JASDAQ市場)	単元株式数100株
計	11,785,800	同左	-	-

(注) ジャスダック証券取引所は、平成22年4月1日付で大阪証券取引所と合併しておりますので、同日以後の上場金融商品取引所は、大阪証券取引所であります。

(2)【新株予約権等の状況】

新株予約権

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成19年3月9日取締役会決議

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年3月31日)
新株予約権の数	225個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	22,500株
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円
新株予約権の行使期間	平成19年3月27日～平成39年3月26日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 2,264円 資本組入額 1株当たり1,132円
新株予約権の行使の条件	(注)1
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)2

(注)1. 新株予約権の行使の条件

(1)新株予約権者は、権利行使期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から5年を経過する日までの間に限り新株予約権を行使することができる。

(2)上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の または に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。

新株予約権者が平成38年3月26日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合

平成38年3月27日から平成39年3月26日

当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）

当該承認日の翌日から15日間

2. 組織再編における募集新株予約権の消滅及び再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日の時点において残存する募集新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、残存新株予約権の定めに準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
残存新株予約権の定めに準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) 新株予約権の取得条項
残存新株予約権の定めに準じて決定する。
- (9) その他の新株予約権の行使の条件
残存新株予約権の定めに準じて決定する。

新株予約権付社債

会社法に基づき発行した新株予約権付社債は、次のとおりであります。

130%コールオプション条項付第1回無担保転換社債型新株予約権付社債（転換社債型新株予約権付社債間限定同順位特約付）（平成19年1月25日取締役会決議）

	第3四半期会計期間末現在 (平成22年3月31日)
新株予約権付社債の残高	4,000百万円
新株予約権の数	4,000個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	(注) 1
新株予約権の行使時の払込金額	(注) 2
新株予約権の行使期間	平成19年3月1日～平成22年12月29日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 (注) 3 資本組入額 (注) 4
新株予約権の行使の条件	(注) 5
新株予約権の譲渡に関する事項	本社債の社債部分と本新株予約権のうち一方のみを譲渡することはできない。
代用払込みに関する事項	本新株予約権の行使に際しては、当該各本新株予約権に係る各本社債を出資するものとし、当該各本社債の価額は、各本社債の金額と同額とする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 6

(注) 1. 新株予約権の目的である株式の数は、同一の新株予約権者により同時に行使された本新株予約権に係る本社債の金額の総額を転換価額で除して得られる数とする。この場合に1株未満の端数を生ずる場合は、これを切り捨て、現金による調整は行わない。

2. 本新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額またはその算定方法

(1) 各本新株予約権の行使に際しては、当該各本新株予約権に係る各本社債を出資するものとする。

(2) 各本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、各本社債の金額と同額とする。

(3) 転換価額は、当初3,456円であり、平成19年3月9日の取締役会決議によるストック・オプションの付与を目的とした新株予約権の発行に伴う転換価額の調整により、平成19年3月27日以後適用される転換価額は3,454円60銭である。

1) 当社は、本社債の発行後、次の2)及び3)に掲げる各事由により当社の普通株式数に変更を生じる場合または変更を生ずる可能性がある場合は、次に定める算式（以下「転換価額調整式」という。）をもって転換価額を調整する。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{発行・処分株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{発行・処分株式数}}$$

2) 時価を下回る払込金額をもってその発行する当社普通株式またはその処分する当社の有する当社普通株式を引き受ける者の募集をする場合。

株式分割等をする場合。

時価を下回る価額をもって当社普通株式の交付と引換えに取得される証券（権利）もしくは取得させることができる証券（権利）または当社普通株式の交付を受けすることができる新株予約権の交付と引換えに取得される証券（権利）もしくは取得させることができる証券（権利）、または行使することにより当社普通株式の交付を受けすることができる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）を発行する場合、なお、新株予約権無償割当ての場合（新株予約権付社債を無償で割り当てる場合を含む。以下同じ。）は、新株予約権を無償として当該新株予約権を発行したものとして本を適用する。

- 3) 次の場合は社債管理者と協議のうえその承認を得て、転換価額の調整を適切に行うものとする。
株式の併合、合併、会社分割または株式交換のために転換価額の調整を必要とするとき。
上記のほか、当社の発行済普通株式数の変更または変更の可能性が生じる事由の発生により転換価額の調整を必要とするとき。
転換価額を調整すべき事由が2つ以上相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の転換価額の算出にあたり使用すべき時価が、他方の事由によって調整されているとみなされるとき。
3. 本新株予約権の行使により発行する当社普通株式1株の発行価格は、各社債権者が行使請求のために提出した本社債の金額の合計額を、交付株式数で除して得られる金額となる。
4. 本新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
5. 当社が本社債につき期限の利益を喪失した場合には、本社債に係る本新株予約権を行使することはできないものとし、当社が本社債を買入れ当該本社債に係る社債部分を消却した場合における当該本社債に係る本新株予約権についても同様とする。また、各本新株予約権の一部について本新株予約権を行使することはできないものとする。
6. 当社が、組織再編行為を行う場合は、本社債の繰上償還を行う場合を除き、組織再編行為の効力発生日の直前において残存する本新株予約権の新株予約権者に対して、当該新株予約権者の有する本新株予約権に代えて、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権で、次の(1)乃至(7)までの内容のもの（以下「承継新株予約権」という。）を交付する。この場合、組織再編行為の効力発生日において、本新株予約権は消滅し、本社債についての社債に係る債務は再編対象会社に承継され、本新株予約権の新株予約権者は、承継新株予約権の新株予約権者となるものとする。ただし、吸収分割または新設分割を行う場合は、以下の条件に沿って、その効力発生日の直前において残存する本新株予約権の新株予約権者に対して当該本新株予約権に代えて再編対象会社の承継新株予約権を交付し、再編対象会社が本社債についての社債に係る債務を承継する旨を、吸収分割契約または新設分割計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編対象会社の承継新株予約権の数
組織再編行為の効力発生日の直前において残存する本社債の社債権者が保有する本社債に係る本新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 承継新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 承継新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の数
当該組織再編行為の効力発生日の直前において有効な本新株予約権の転換価額を上記本欄注2(3)に準じた調整を行ったうえ、上記本欄注(1)の内容に準じて決定する。なお、組織再編行為の効力発生日以後における承継新株予約権の転換価額は、上記本欄注2(3)の調整に準じた調整を行う。
- (4) 承継新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額またはその算定方法
交付される各承継新株予約権の行使に際しては、当該各承継新株予約権に係る各社債を出資するものとし、各承継新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、当該各社債の金額と同額とする。
- (5) 承継新株予約権の行使期間
本新株予約権の行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、本新株予約権の行使期間の満了日までとする。
- (6) 承継新株予約権の行使の条件及び承継新株予約権の取得条項
上記本欄注5の内容に準じて決定する。本新株予約権の取得条項は定めない。
- (7) 承継新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
上記本欄注4の内容に準じて決定する。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成22年1月1日～平成22年3月31日	-	11,785,800	-	931,000	-	1,080,360

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（平成21年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 522,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,262,400	112,624	-
単元未満株式	普通株式 700	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,785,800	-	-
総株主の議決権	-	112,624	-

(注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて当社保有の自己株式であります。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式27株が含まれております。

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
レーザーテック 株式会社	神奈川県横浜市港北区 新横浜二丁目10番地1	522,700	-	522,700	4.43
計	-	522,700	-	522,700	4.43

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月
最高(円)	921	983	1,090	1,320	1,098	1,158	1,318	1,430	1,478
最低(円)	727	852	850	940	770	786	1,023	1,144	1,351

(注) 最高・最低株価はジャスダック証券取引所におけるものであります。なお、ジャスダック証券取引所は、平成22年4月1日付で大阪証券取引所と合併しております。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、監査法人トーマツによる四半期レビューを受け、また、当第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、監査法人トーマツは、監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって有限責任監査法人トーマツとなっております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,768,248	1,571,244
受取手形及び売掛金	3,131,999	4,389,770
仕掛品	3,012,771	3,649,784
原材料及び貯蔵品	599,788	599,683
繰延税金資産	482,661	359,959
その他	217,203	297,116
貸倒引当金	9,557	9,666
流動資産合計	9,203,115	10,857,893
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,714,204	2,894,589
機械装置及び運搬具(純額)	43,555	53,828
工具、器具及び備品(純額)	157,042	204,286
土地	4,254,773	4,254,773
有形固定資産合計	7,169,576 ₁	7,407,478 ₁
無形固定資産	574	567
投資その他の資産		
投資有価証券	237,467	238,572
長期未収入金	513,338 ₂	586,672 ₂
繰延税金資産	517,494	546,126
その他	275,574	230,656
投資その他の資産合計	1,543,875	1,602,027
固定資産合計	8,714,025	9,010,073
資産合計	17,917,141	19,867,967

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	384,297	385,181
短期借入金	600,000	1,100,000
1年内償還予定の新株予約権付社債	4,000,000	-
未払法人税等	24,671	10,962
前受金	289,216	398,968
賞与引当金	107,997	-
製品保証引当金	151,182	165,241
その他	315,586	496,175
流動負債合計	5,872,952	2,556,530
固定負債		
新株予約権付社債	-	5,000,000
長期未払金	60,400	60,400
繰延税金負債	893	1,516
退職給付引当金	280,706	276,086
固定負債合計	342,000	5,338,003
負債合計	6,214,952	7,894,533
純資産の部		
株主資本		
資本金	931,000	931,000
資本剰余金	1,080,360	1,080,360
利益剰余金	10,764,434	11,060,761
自己株式	993,964	993,964
株主資本合計	11,781,829	12,078,156
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,746	25,534
為替換算調整勘定	125,811	130,105
評価・換算差額等合計	130,557	155,640
新株予約権	50,917	50,917
純資産合計	11,702,189	11,973,433
負債純資産合計	17,917,141	19,867,967

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
売上高	4,892,572	5,109,024
売上原価	3,280,513	3,303,439
売上総利益	1,612,058	1,805,584
販売費及び一般管理費	2,507,742	1,992,266
営業損失()	895,684	186,681
営業外収益		
受取利息	8,379	2,927
受取配当金	2,771	980
社債償還益	-	55,250
固定資産賃貸料	3,368	3,143
その他	6,363	2,398
営業外収益合計	20,882	64,699
営業外費用		
支払利息	5,736	9,992
固定資産賃貸費用	-	26,138
為替差損	28,537	15,705
その他	981	0
営業外費用合計	35,255	51,836
経常損失()	910,057	173,819
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	148
補助金収入	6,566	-
固定資産売却益	599	6
特別利益合計	7,165	155
特別損失		
固定資産処分損	1,821	403
固定資産圧縮損	6,566	-
減損損失	22,601	-
投資有価証券評価損	141,328	35,934
その他	6,551	-
特別損失合計	178,868	36,337
税金等調整前四半期純損失()	1,081,759	210,001
法人税、住民税及び事業税	10,412	26,741
法人税等調整額	372,829	109,362
法人税等合計	362,417	82,620
四半期純損失()	719,342	127,380

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
売上高	422,967	1,448,727
売上原価	452,277	913,379
売上総利益又は売上総損失()	29,310	535,348
販売費及び一般管理費	619,259	641,498
営業損失()	648,570	106,150
営業外収益		
受取利息	2,315	1,691
固定資産賃貸料	1,762	380
為替差益	4,041	6,948
その他	1,916	251
営業外収益合計	10,035	9,271
営業外費用		
支払利息	2,382	2,456
固定資産賃貸費用	-	13,059
その他	605	-
営業外費用合計	2,987	15,516
経常損失()	641,522	112,394
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	537
補助金収入	6,566	-
固定資産売却益	8	0
投資有価証券評価損戻入益	-	34,387
特別利益合計	6,574	34,924
特別損失		
固定資産処分損	530	57
固定資産圧縮損	6,566	-
減損損失	22,601	-
投資有価証券評価損	13,578	-
その他	909	-
特別損失合計	44,185	57
税金等調整前四半期純損失()	679,133	77,527
法人税、住民税及び事業税	5,708	1,944
法人税等調整額	269,012	48,347
法人税等合計	263,304	46,403
四半期純損失()	415,828	31,124

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	1,081,759	210,001
減価償却費	358,812	265,323
減損損失	22,601	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,130	148
賞与引当金の増減額(は減少)	152,868	107,997
役員賞与引当金の増減額(は減少)	116,600	-
製品保証引当金の増減額(は減少)	52,272	13,531
退職給付引当金の増減額(は減少)	55,900	3,458
受取利息及び受取配当金	11,150	3,907
支払利息	5,736	9,992
為替差損益(は益)	75,337	11,447
社債償還益	-	55,250
有形固定資産売却損益(は益)	599	6
有形固定資産処分損益(は益)	1,821	403
固定資産圧縮損	6,566	-
長期未収入金の増減額(は増加)	66,768	73,334
投資有価証券評価損益(は益)	141,328	35,934
売上債権の増減額(は増加)	1,151,268	1,249,632
たな卸資産の増減額(は増加)	2,346,601	639,026
未収入金の増減額(は増加)	535,123	61,107
仕入債務の増減額(は減少)	310,903	884
前受金の増減額(は減少)	430,053	110,584
その他	316,423	204,092
小計	1,677,436	1,859,248
利息及び配当金の受取額	14,448	4,555
利息の支払額	6,535	9,759
法人税等の支払額	788,926	14,250
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,458,450	1,839,792
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	35,150	-
定期預金の払戻による収入	1,123	-
有形固定資産の取得による支出	46,485	15,443
有形固定資産の売却による収入	663	1,141
無形固定資産の取得による支出	53,897	-
投資有価証券の取得による支出	135,296	-
その他	14,821	13,216
投資活動によるキャッシュ・フロー	283,862	27,517
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	2,100,000	500,000
社債の償還による支出	-	944,750
自己株式の取得による支出	99	-
配当金の支払額	563,158	168,946
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,536,742	1,613,696
現金及び現金同等物に係る換算差額	117,359	5,174
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,322,930	193,403
現金及び現金同等物の期首残高	2,855,496	1,533,694
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,532,566	1,727,098

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末 (平成21年6月30日)																
<p>1. 有形固定資産の減価償却累計額は、1,667,312千円です。</p> <p>2. 長期未収入金</p> <p>(1) 長期未収入金の概要</p> <p>横浜市企業立地等促進特定地域における支援措置に関する条例第10条及び第11条に基づき、平成20年12月12日に報告した確定投下資本額について、平成21年1月15日に認定を受けた助成金の交付額の総額732,566千円を10年間に分割して交付されることとなりました。当第3四半期連結会計期間末までに受領済の交付金3回分219,228千円を除いた残額513,338千円を長期未収入金として計上しております。</p> <p>なお、各年の助成金交付額は毎年当社の申請により横浜市の予算状況により決定されるものであります。</p> <p>(2) 認定の内容</p> <p>認定の年月日及び番号 平成21年1月15日経観誘国第407号</p> <p>認定された投下資本額 7,325,667千円</p> <p>助成金の交付額 732,566千円</p> <p>(3) 認定事業者の条件</p> <p>横浜市企業立地等促進特定地域における支援措置に関する条例第13条により、認定事業者は、企業立地等に係る事業を開始した日から原則として10年を経過する日までの間、当該企業立地等に係る事業を継続しなければならないとされています。</p> <p>(4) 当第3四半期連結会計期間末において当助成金の適用を受けて有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額</p> <table border="0"> <tr> <td>土地</td> <td>400,000千円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>324,566</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>8,000</td> </tr> <tr> <td>圧縮記帳額合計</td> <td><u>732,566</u></td> </tr> </table>	土地	400,000千円	建物及び構築物	324,566	機械装置及び運搬具	8,000	圧縮記帳額合計	<u>732,566</u>	<p>1. 有形固定資産の減価償却累計額は、1,427,223千円です。</p> <p>2. 長期未収入金</p> <p>(1) 長期未収入金の概要</p> <p>横浜市企業立地等促進特定地域における支援措置に関する条例第3条第3項の規定に基づき、平成18年10月27日に申請した事業計画について平成19年2月1日に認定を受けた助成金の交付予定額の総額726万円を10年間に分割して交付されることとなり、前連結会計年度は受領済の第1回交付金72,560千円を除いた残額9回分653,440千円を長期未収入金として計上いたしました。</p> <p>当連結会計年度において、横浜市企業立地等促進特定地域における支援措置に関する条例第10条及び第11条に基づき、平成20年12月12日に報告した確定投下資本額について、平成21年1月15日に認定を受けた助成金の交付額の総額732,566千円を10年間に分割して交付されることになりました。当連結会計年度末までに受領済の交付金2回分145,894千円を除いた残額8回分586,672千円を長期未収入金として計上しております。</p> <p>なお、各年の助成金交付額は毎年当社の申請により横浜市の予算状況により決定されるものであります。</p> <p>(2) 認定の内容</p> <p>認定の年月日及び番号 平成21年1月15日経観誘国第407号</p> <p>認定された投下資本額 7,325,667千円</p> <p>助成金の交付予定額 732,566千円</p> <p>(3) 認定事業者の条件</p> <p>横浜市企業立地等促進特定地域における支援措置に関する条例第13条により、認定事業者は、企業立地等に係る事業を開始した日から原則として10年を経過する日までの間、当該企業立地等に係る事業を継続しなければならないとされています。</p> <p>(4) 当連結会計年度末において当助成金の適用を受けて有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額</p> <table border="0"> <tr> <td>土地</td> <td>400,000千円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>324,566</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>8,000</td> </tr> <tr> <td>圧縮記帳額合計</td> <td><u>732,566</u></td> </tr> </table>	土地	400,000千円	建物及び構築物	324,566	機械装置及び運搬具	8,000	圧縮記帳額合計	<u>732,566</u>
土地	400,000千円																
建物及び構築物	324,566																
機械装置及び運搬具	8,000																
圧縮記帳額合計	<u>732,566</u>																
土地	400,000千円																
建物及び構築物	324,566																
機械装置及び運搬具	8,000																
圧縮記帳額合計	<u>732,566</u>																

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員報酬 157,820千円	役員報酬 109,620千円
給料及び賞与 577,054	給料及び賞与 516,729
退職給付引当金繰入額 23,949	退職給付引当金繰入額 13,989
減価償却費 143,987	減価償却費 92,348
研究開発費 966,892	研究開発費 716,669
貸倒引当金繰入額 5,675	

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員報酬 49,520千円	役員報酬 35,130千円
給料及び賞与 202,917	給料及び賞与 178,372
退職給付引当金繰入額 3,443	退職給付引当金繰入額 3,574
減価償却費 43,722	減価償却費 31,068
研究開発費 228,751	研究開発費 222,449
貸倒引当金繰入額 199	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
現金及び現金同等物の四半期期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在)	現金及び現金同等物の四半期期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)
現金及び預金勘定 1,567,716千円	現金及び預金勘定 1,768,248千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 35,150	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 41,150
現金及び現金同等物 1,532,566	現金及び現金同等物 1,727,098

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年3月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成22年3月31日)

1.発行済株式の種類及び総数

普通株式 11,785,800株

2.自己株式の種類及び株式数

普通株式 522,727株

3.新株予約権等に関する事項

ストック・オプションとしての新株予約権

新株予約権の四半期連結会計期間末残高 当社 50,917千円

4.配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年9月28日 定時株主総会	普通株式	168,946	15	平成21年6月30日	平成21年9月29日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当社グループは、半導体関連装置及びFPD関連装置並びにレーザー顕微鏡等の設計、製造、販売並びにこれらに係るサービスを主たる事業としておりますが、これらの製品は、製造方法、製造過程に多くの共通点、類似点を持ち、また、市場及び販売方法も類似している点から全体をひとつのセグメントとして扱っております。このため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	302,199	94,705	26,062	422,967	-	422,967
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	30,656	-	12,812	43,469	(43,469)	-
計	332,856	94,705	38,875	466,437	(43,469)	422,967
営業損失()	633,593	6,160	28,678	668,431	19,861	648,570

当第3四半期連結会計期間(自平成22年1月1日至平成22年3月31日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	1,368,236	45,030	35,459	1,448,727	-	1,448,727
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	31,437	-	49,908	81,346	(81,346)	-
計	1,399,674	45,030	85,367	1,530,073	(81,346)	1,448,727
営業利益又は営業損失()	78,701	24,129	6,265	96,566	(9,584)	106,150

前第3四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	4,316,238	465,539	110,793	4,892,572	-	4,892,572
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	346,063	-	48,793	394,857	(394,857)	-
計	4,662,302	465,539	159,587	5,287,429	(394,857)	4,892,572
営業損失()	799,881	12,286	56,315	868,483	(27,201)	895,684

当第3四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成22年3月31日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	4,682,164	294,920	131,939	5,109,024	-	5,109,024
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	201,291	-	196,691	397,983	(397,983)	-
計	4,883,456	294,920	328,630	5,507,007	(397,983)	5,109,024
営業利益又は営業損失()	202,407	34,810	82,849	154,369	(32,312)	186,681

- (注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。
2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。
北米.....アメリカ他
その他.....韓国他

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

	アジア地域	北米地域	欧州地域	計
海外売上高(千円)	43,524	75,431	201	118,754
連結売上高(千円)	-	-	-	422,967
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	10.3	17.8	0.0	28.1

当第3四半期連結会計期間(自平成22年1月1日至平成22年3月31日)

	アジア地域	北米地域	欧州地域	計
海外売上高(千円)	426,323	37,676	19,532	483,532
連結売上高(千円)	-	-	-	1,448,727
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	29.4	2.6	1.3	33.4

前第3四半期連結累計期間（自平成20年7月1日至平成21年3月31日）

	アジア地域	北米地域	欧州地域	計
海外売上高（千円）	1,674,002	446,265	104,429	2,224,697
連結売上高（千円）	-	-	-	4,892,572
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	34.2	9.1	2.1	45.5

当第3四半期連結累計期間（自平成21年7月1日至平成22年3月31日）

	アジア地域	北米地域	欧州地域	計
海外売上高（千円）	2,593,625	269,079	38,019	2,900,724
連結売上高（千円）	-	-	-	5,109,024
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	50.8	5.3	0.7	56.8

（注）1．地域は、地理的近接度により区分しております。

2．各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1)アジア地域.....台湾、韓国、中国他

(2)北米地域.....アメリカ

(3)欧州地域.....ドイツ他

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の地域における売上高であります。

（有価証券関係）

記載すべき事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

当社グループは、デリバティブ取引を全く行っておりませんので該当事項はありません。

（ストック・オプション等関係）

記載すべき事項はありません。

（1株当たり情報）

1．1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 （平成22年3月31日）		前連結会計年度末 （平成21年6月30日）	
1株当たり純資産額	1,034.46円	1株当たり純資産額	1,058.54円

2. 1株当たり四半期純損失

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり四半期純損失() 63.86円 なお、潜在株式調整後1株当たりの四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失() 11.30円 なお、潜在株式調整後1株当たりの四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり四半期純損失		
四半期純損失()(千円)	719,342	127,380
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失()(千円)	719,342	127,380
期中平均株式数(千株)	11,263	11,263

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり四半期純損失() 36.91円 なお、潜在株式調整後1株当たりの四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失() 2.76円 なお、潜在株式調整後1株当たりの四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり四半期純損失		
四半期純損失()(千円)	415,828	31,124
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失()(千円)	415,828	31,124
期中平均株式数(千株)	11,263	11,263

(重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間
(自平成22年1月1日
至平成22年3月31日)

(子会社設立に関する事項)

当社は、平成22年4月28日開催の取締役会において、以下のとおり台湾に子会社を設立することを決議いたしました。

- (1) 名称 (中文名) 雷泰光電肢?有限公司
(英語名) Lasertec Taiwan Inc.
- (2) 代表者 董事長 砂子 雅史
総経理 葉俊戒
- (3) 所在地 新竹県竹北市
- (4) 設立日 平成22年7月1日(予定)
- (5) 主な事業内容 当社製品の販売、技術支援
- (6) 決算期 6月30日
- (7) 資本金 23百万NT\$(日本円:約70百万円)
- (8) 持分比率 当社100%

(リース取引関係)

記載すべき事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年5月8日

レーザーテック株式会社

取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 安正 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 羽鳥 良彰 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているレーザーテック株式会社の平成20年7月1日から平成21年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、レーザーテック株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年5月7日

レーザーテック株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勝又三郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 羽鳥良彰 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているレーザーテック株式会社の平成21年7月1日から平成22年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、レーザーテック株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。